

□【かみかわ知っ得セミナーを開催します】

上川管内にある道総研3機関（上川農業試験場、林産試験場、北方建築総合研究所）が連携して、身近なテーマでセミナーを開催します。

今年は3日間連続してセミナーを開催するほか、セミナーに関連した研究成果等の展示も行いますので、多くの方々のご来場をお待ちしております。

日時及びテーマ

第1回 10月22日（水）12：20～12：55

「考えよう！我が家の屋根の雪対策」

講師：北方建築総合研究所 研究主査 高倉 政寛

第2回 10月23日（木）12：20～12：55

「しっぽのある家族と楽しく暮らすために～ペット共生型床材の開発～」

講師：林産試験場 研究主任 松本 久美子

第3回 10月24日（金）12：20～12：55

「全国のもち食文化を支える上川の糯（もち）品種」

講師：上川農業試験場 研究主査 木内 均

（企画課 酒井）

□【道総研ランチタイムセミナー「おひるの科学」に参加します】

道総研本部が研究活動について多くの方々に知っていただくため、毎月北海道庁1階の交流広場で開催しているランチタイムセミナー「おひるの科学」に、北総研も講師として参加します。

「暮らし方と省エネルギー ～私たちは何ワットで暮らせるか？～」と題し、生活の中で必要なエネルギーはどれくらいなのか、また省エネのポイント等について解説します。

日々の暮らしに欠かせないエネルギーについて、改めて考えてみませんか。

皆様のご来場をお待ちしております。

日時：平成26年10月24日（金）12：05～12：55

場所：北海道庁交流広場（札幌市中央区北3条西6丁目）

（企画課 酒井）

=====
トピックス 「コンブの産地を訪ねて」
=====

道総研発足以降、環境グループでは、農業研究本部や水産研究本部と連携した食料生産に関わる研究テーマが増加しています。

昨年から乾燥施設の実態調査のため、道内各地のコンブ産地を訪ねています。多くのコンブ産地では、天日乾燥に加え、灯油や重油を使用した機械乾燥が併用されていますが、乾燥施設の構造、コンブの掛け方、温湿度の設定、乾燥時間など、乾燥方法は地域によって大きく異なることがわかりました（同じ集落内では漁師さんの考え方の違いによる若干の差はありますが、概ね同じ方法が採用されています）。地域による乾燥方法の違いは、気象条件やコンブの種類の違い、敷地条件などが影響しているようですが、機械乾燥が導入されてから数十年の間に、各地域で独自に進化し、現状でもそれなりに洗練された方法で乾燥が行われていると行うことができると思います。

一方、いまのやり方のままでは限界が来ているという意見も、生産者の中に少なからずあり、そこに研究ニーズもあると考えています。背景にあるのは燃料代の高騰と人手不足です。人手不足は最近いろいろな分野で深刻な問題となっていますが、コンブ生産はいまも基本的に家族労働によって担われています。昨年は根室で代々続くコンブ漁家を夜通し見学させていただき、親子孫3代の家族全員で役割分担をしての深夜に及ぶ作業には、失われつつある生業としての生産の姿を見た気がしました。そして、他の漁家には負けたくないという気持ちで、地域としてコンブの質を維持しているのだと言います。

いま私たちが研究で取り組んでいる新しい技術が、こうした食の生産現場に生かされるためには、省エネ性能や経済性を指標とするだけでなく、生産現場の魅力向上につながるものでなければと考えているところです。

(環境G 立松)

=====
研究紹介「重点研究：低コスト地中採熱システム及び温泉排湯等の熱回収システムの開発」
=====

重点研究「低コスト地中採熱システム及び温泉排湯等の熱回収システムの開発」(主管：工業試験場)では、低コストで施工性が良いプラスチック製の地中熱交換器と温泉熱交換器を開発しており、北総研では、主に、最適な設計条件を探るためのシミュレーションを担当しています。

地中熱交換器は、ヒートポンプ暖房用として、深さ約1.5m程度までの浅い地中に設置し採熱するもので、従来のボアホール方式に比べ、設置コストを半減することを目標にしています。今後、フィールドでの実測結果と数値解析結果を基に設計資料を作成する予定です。

温泉熱交換器は排湯を給湯の予熱に利用するためのものであり、数値流体解析と実験室実験で形状および性能を検討してきました。今後、実際の温泉施設に設置して、維持管理性なども含めて検証し、導入マニュアルを作成する予定です。

(環境G 月館)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【根室振興局住宅協議会が開催されました】

8月27日に根室振興局地域住宅協議会が開催されました。

議事には別海町木造平屋住棟「西春別団地」に係る検討として、断熱性能、換気手法、界壁の遮音対策などが議題として取り上げられました。

「西春別団地」は平成27年度の施工・完成に向けて今年度設計が進められているところです。

北総研からは廣田と遠藤の2名が会議に出席し、平成25年省エネルギー基準や環境共生型公営住宅整備の手引き（仮）、木造共同住宅の遮音工法について説明を行った後、具体的に西春別団地（1棟3戸）の仕様検討に入りました。

省エネルギー基準については、これまでの環境共生公営住宅基準に適合する外皮性能とすることで、外皮平均熱貫流率は基準値をクリアするほか、公住の標準的な設備機器で一次エネルギー消費量も基準値を10%以上下回り、省エネルギー性能をアピールできることがわかりました。換気方式は第3種機械換気とし、天井懐を通して給気する方式を検討しています。

また、遮音対策は、界壁にせっこうボード12.5mmを二重張り、間柱の千鳥配置、グラスウール挿入といった仕様にするすることで、これまでより一ランク高い遮音性能が確保できます。これらの仕様が実現できるように現在検討を行っています。

北総研では、この様な取り組みに対し技術支援を行っていますので、ご相談ください。

（構法材料G 廣田）

■【北海道教育大学附属旭川中学校生徒の研修受け入れをしました】

9月2日、北海道教育大学附属旭川中学校「勤労・職場体験学習」により3年生の生徒さん3名を受け入れ、研修を行いました。

これは、附属中学校より依頼のあったもので、生徒さんが将来仕事に就いたときのイメージをもってもらったり、進路選択に生かすための研修で、研修内容としては、「北総研の概要説明」「研究員の仕事」「研究事例の紹介」「ユニバーサルデザインについての概要及び説明」「実験体験」を行いました。

生徒さんは、研究職に興味のあるということで、実際に研究職員からの研究職になるまでの経過や研究業務等の説明に対し、熱心に学習し積極的に質問もされておりました。

また後日、3名の生徒さんからはお礼の手紙も届き、研究職への興味を深めていただけた内容のことが書かれており、大変嬉しく思いました。

